

中学生に平和を訴える

佐賀県

武雄北中学校平和学習会

平和教育を熱心に実施している佐賀県武雄北中学校にて、去る6月25日、平和学習会の一環として当会の塩川副理事長が「戦没者に不戦を誓う旅」と題して、在校生・保護者に対し講演を行いました。

武雄北中学校では、数年前より沖縄県への修学旅行の中で、戦跡の見学や、沖縄戦体験者である中程シゲさんの講演を聞くなど、平和の大切さを学ぶ活動を行われています。この学習会では、まずその修学旅行で学んだことの発表がありました。沖縄といえば、今でこそ「青い海」「白い砂浜」「観光客が押し寄せるリゾートアイランド」というイメージがありますが、ほんの数十年前までそこが戦場であり、悲惨な歴史があることに触れた生徒さん達は、自分の姿を置き換えて戦争の悲惨さを学び、そして自分の言葉で語っていました。

その後の塩川副理事長の講演では、遺体収容の取り組み、その活動がTBSテレビで取り上げられた模様、厚生労働省との交渉など、中学生には多少難しいかとも思われましたが、精魂込めて講話をされました。特に、今なお遺体がそこに残されていることには、生徒さん達は少なからずショックを受け、そして憤りを感じたように見受けられました。

また、会場には当会が遺族探しを行っている日章旗などの遺品を展示し、生徒さんは熱心に見入っていました。

多くの生徒さんから感想文をいただきましたがら名だけ紹介させていただきます。

以下、生徒さん達の感想文をご覧下さい。

H・S (15歳・男)
私は、沖縄に行くと戦争のことについて学びました。しかし今日学んだことは修学旅行では学べなかったことが多く学べて自分にとってとても良い講話でした。

塩川さんの用意して下さった沖縄戦の写真や記事、日章旗などを展示して下さり戦争に対するいかり悲惨さが心に残りました。私は日章旗を一文一文字見ていきました。その中に「死んで自分の名を残せ」と「死んで来い」という兵士に対しての励ましや願いが込められていました。母親や家族はもう生きて帰れないかもしれない、会話も一緒に暮らすことも出来ないことを分かっていいたと思います。私は、兵士の母や家族は、頑張っ

て生きて帰ってほしいという願いが感じられました。そしてその一文一文字は乱れずともきれいに書かれていて、頑張れ！負ける気にならないという、愛や励まし、勇気が込められていると思いました。塩川さんの講話の映像は、白骨遺体を掘り出すツアーの内容でした。一人一人大切に掘り出すのはとても難しいことだと思います。でも一人でも多くの人を助けたいと気持ちがあると骨が出たら一人の命が助かったという安心感が浮かんできました。機会があれば、このツアーに参加して一人でも多くの不明者を見つけたいと思います。戦没者がすべて

「戦争を風化させるな」この一言にこめられた思いが次々に浮かんできた。戦争の風化これこそが日本を戦争のできる国にしている原因だと思ふ。日本人は平和すぎて、戦争を過去のこととしか考えていない。沖縄戦ではまだ、戦争と戦い続けていると思ふ。基地問題や、不明・残存のガマ、国の対応……。一つ一つのことを皆で考えることによって、戦争の風化は防げられる。塩川さんの話の中で一番私が考えたことは、健児の塔の慰霊祭のことだ。後継者が居ないから、来年から慰霊祭はなくなる。これは後継者問題ではないと思ふ。鉄血勤皇隊として徴兵された少年達の霊を慰めるための会なのにな。塔があるだけでは何も意味が無い。沖縄の風習はよく分からないが、私は少数の会でもよいから、1人でも多くの方が参加することにによって戦争に対する思いが変わり、世界の平和を発信する核になると思ふ。

アメリカの平和学習には驚いた。「真珠湾を忘れるな」第二次世界大戦や太平洋戦争での被害は、あまり日本の歴史では学べない。それなのにアメリカでは、日本の日章旗を使い平和学習をしている。これは日本が学ばなければならないところだと思ふ。広島・長崎原爆投下、東京大空襲……。日本は、やられるだけの戦争をしたのだろうか。日本が実際にやったことも学び、底を深く考える。これもひとつの平和学習ではないだろうか。

今回の人権・平和学習会で学んだことは決して忘れず、たくさんの人に伝えていければいいなと思ふ。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

戦後61年が過ぎ、戦争体験を持つ人はどんどん少なくなつてきています。戦争の悲惨さをいかにして語り継いでいくことが、平和を守るための課題ですが、このような熱心な平和教育こそが、戦争を風化させないために必要なことだと思ふ。今後とも会としてこのような活動に取り組みしていきたいと思ふ。

武雄北中学校の皆さんありがとうございました。

忘れられていた方々の活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

お話の中で特に一番印象に残っていることは、「遺体」のことです。「人々は、遺骨、遺骨と言ってくれ、私は違うと思ふ。これは戦死者の今なお埋まっている人の遺体なんだと私は思ふ。」と語られました。私は心の中の自分と見比べた。塩川さんの言葉が矢張り、遺骨と言っていた自分後悔？しました。自分の中で、塩川さんの言うとおりだと感じたからです。

私は、遺体を取り出す活動をされた方々の実際の映像を見ました。「よく知らない人の遺体を探そうと気持ちになつたな」と心の奥では、そう思っていました。でも、参加者の言葉も聞き、自分が思っていたことをあの方たちへ伝えてあげたいと思ふ。そして終わったところには、お疲れ様でした。私には、平和集いで平和に対するみんなの気持ちがひとつになつたような気がしました。そして戦争のおろかさを伝えていきたいです。

塩川さんは、沖縄戦で亡くなった人々の遺骨(遺体)を遺族の方々への返還活動をしているところが、自分のことでも驚いた。まず無理だと思ふし、そんな気がわくかどうか分からない。でも話を聞いているうちに、60年も土の下で家族にも顔すら合わせられずに眠っているのはとても心が痛むので、たった一人でも遺族の方々へ返してあげようと思つた塩川さんがとても素晴らしいと思ふ。

沖縄県旧第一中学校 健児の塔慰霊祭に参加して

塩川 正隆

沖縄戦が終結して61年となる2006年6月23日、沖縄県各地では慰霊祭が行なわれていた。

私は、戦後から今日まで沖縄戦で戦死した父親が、何処でどのようにして戦死したのか、どうして知りたくて、父親探しを行っていた。最近、父親が所属していた無線中隊に、当時沖縄県旧第一中学校(現在の首里高校)2年生の生徒が配属されたと言ふ有力な情報を得たため、6月23日に首里高校同窓会(社団法人養秀同窓会)を訪問し、第61回「健児の塔慰霊祭」に参加させて頂いた。

慰霊祭は正午から、生徒隊の方々2百数十名が眠る「健児の塔」前で行われ、遺族・教職員・学生・同窓生など1,000数百名が参加されて行われた。

慰霊祭では、生徒代表「当間悠太君の力強い平和の誓いや、学級代表の献花、そして剣道部・空手部の奉納演武などがあり、学校を挙げて悲惨な戦争を繰り返さない取り組みが行われていること

戦後61年が経過し、父親に関する情報はあきらかけていたが、また望みがでてきた。

横田校長先生をはじめ、首里高校関係者の皆さん、大変お世話になりました。

また、父親の無線中隊に配属されていた、「旧第一中学校二年生の会(一条会)」に招かれ、父親に関する多くの情報を頂いたので、

戦後61年が経過し、父親に関する情報はあきらかけていたが、また望みがでてきた。

横田校長先生をはじめ、首里高校関係者の皆さん、大変お世話になりました。

また、父親の無線中隊に配属されていた、「旧第一中学校二年生の会(一条会)」に招かれ、父親に関する多くの情報を頂いたので、

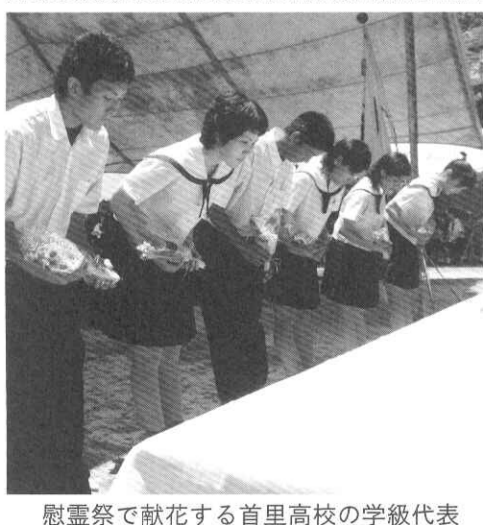
戦後61年が経過し、父親に関する情報はあきらかけていたが、また望みがでてきた。

横田校長先生をはじめ、首里高校関係者の皆さん、大変お世話になりました。

また、父親の無線中隊に配属されていた、「旧第一中学校二年生の会(一条会)」に招かれ、父親に関する多くの情報を頂いたので、

戦後61年が経過し、父親に関する情報はあきらかけていたが、また望みがでてきた。

横田校長先生をはじめ、首里高校関係者の皆さん、大変お世話になりました。



慰霊祭で献花する首里高校の学級代表